新たなステージに向けて飛躍！ 事業継続計画（BCP）の充実で地域社会に貢献

東九州道（日向インターチェンジ）と日向工場

「新たなステージに向けた飛躍の場にしたい」。砕石・砕砂製造を手がける矢野産業（宮崎県国富町）の矢野俊也社長は決意表明する。東日本大震災を教訓に災害時のリスク対策として作成した事業継続計画（BCP）に基づき、2015年末に宮崎市内から国富町の高台に本社機能を移転、操業を始めた。同年7月には県内3カ所目となる砕石工場を稼働させ「建設用骨材を通じて地域社会に奉仕する」という経営理念の実現にまい進する。

矢野産業株式会社
代表取締役社長　矢野俊也

本社移転

新本社は鉄骨2階建て敷地面積は約8500平方㍍、延べ床面積は約918平方㍍。東九州自動車道に隣接する最適地を選んだ。

機動力発揮

同社の近くには国富スマートインターチェンジ（IC）が新設予定。完成すれば東九州道沿いにある日向、宮崎、日南の3市にある砕石工場が結ばれ、機動力を発揮できる。災害時、西日本高速道路（NEXCO西日本）などと連携して、「東九州道をはじめとするライフラインの復興、災害救助に迅速に取り組むことができる」（矢野社長）と期待が高まる。

県内全域に安定供給

7月に稼働した日南工場は県南地域の拠点。生産能力は年産約46万㌧。子会社の矢野産業輸送日南営業所も新設したことで、県内全域の社会インフラを支える資材の安定供給体制を整えた。

「今後ともBCPを充実させ、地域社会の発展に貢献していきたい」と矢野社長の決意は揺るがない。PR

新本社社屋

■営業品目
コンクリート用砕石　アスファルト合材用砕石
路盤材一式・道床用バラスト　土木用割栗石・港湾用捨石・砕砂
グランド用美砂・農業用ロックワン

グループ会社　●矢野運輸株式会社　●矢野産業輸送株式会社　●矢野損害保険株式会社　●宮崎再生資材株式会社　●黒潮建設株式会社

yano 矢野産業株式会社
本社　〒880-1113 宮崎県東諸県郡国富町大字木脇3952番地3
TEL（0985）24-3551（代）　FAX（0985）24-3929
■田野工場　■日向工場　■宮崎港事業所　■日南工場

直結・東九州道（北九州・大分・宮崎）

震災の復旧、復興を後押し

九州で続発している地震で高速道路も各地で寸断される中、北九州市から大分市を経由して宮崎市まで伸びる東九州自動車道が、24日に直結した。北部九州の間隙（かんげき）であった椎田南インターチェンジ（IC、福岡県築上町）―豊前IC（同豊前市）間の開通によるものだ。西日本高速道路（NEXCO西日本）は現在、技術者を九州に集め、被災した高速道路の復旧に全力を注いでいる。「多くの被災者が不安・不便な生活を強いられている中、高速道路網の速やかな復旧に全力で取り組む必要がある」と式典こそ中止したものの、予定通り開通した。東九州地域の大動脈がつながったことで、ヒト、モノの交流が活発化し、一刻も早い復興と九州経済の底上げに期待は高まる。

熊本地方を襲った地震は九州縦貫自動車道をはじめ、熊本を中心とする交通インフラを寸断した。関係者が総力を挙げて復旧を急ぐ中、24日に東九州道の椎田南IC―豊前IC間が開通。九州における循環型の高速道路ネットワークがつながった。

今回の地震は災害時の代替ルート確保や緊急搬送の時間短縮など、暮らしの安全・安心に高速道路が重要な役割だと再認識する機会となった。

東九州の震災被害は限定的で現在のところ大きな問題はない。東九州道を代替ルートに物資を南北に輸送するケースも出てきている。東九州道は被災を免れた企業の日常を支え、被災した地域や企業の復旧・復興を加速させる大きな力になる。

これまで大分・宮崎両県の東九州道が段階的に開通するにつれて、ヒト・モノが集まる好循環が生まれた。産業面では開通を見越した企業誘致が増加。5年間で大分県佐伯市は19件、宮崎県延岡市は31件が立地した。宮崎県日向市の細島港には製材会社が立地、国産材の輸出量が伸びた。観光面では大分、宮崎両県の観光入り込み客数が2015年は前年比約1・1倍に増加したという波及効果もある。

九州では依然、余震が続いている。だが徐々に復旧が始まった地域では日常を取り戻し、大分の観光地では営業再開するなどの明るい兆しもみえてきた。

今後、地震を乗り越え、循環型高速道路ネットワークを起爆剤にした九州経済の力強い浮揚を期待したい。

宮崎市長　戸敷　正 氏

陸海空の物流拠点構築を目指す

15年度末の東九州自動車道開通（大分―宮崎）により、沿線自治体では、観光や広報部門による連携が図られ、事業者間においても高速バスや観光ツアーが新設された。ゴールデンウイーク（GW）などの休日には沿線の観光施設を中心に、九州や四国地方の各地から観光客が多く訪れるなど、明るい兆しが見えてきたところだ。

また、福岡県豊前市にある宮崎県自動車産業北部九州フロンティアオフィスには、本市に拠点を置く関連企業が入居しており、東九州道の整備とともに新たな取引が開始されるなど、今後の取引拡大も期待される。

北九州市までの開通によってヒト・モノの動きが一層活発となり、今後は高速道路ネットワークをいかに活用するかが重要となる。

宮崎市を含む宮崎県の日向灘沿岸には、細島港、宮崎港、油津港の三つの重要港湾や鉄道網が位置する。中央部に位置する本市には、宮崎空港が中心市街地に近接した利便性の高い位置にあり、高速道路ネットワークと港湾、鉄道、空港といった交通物流拠点を効率的に活用した、物流網の構築を実現させることが、今後の成長の鍵を握ると考える。

悲願であった東九州道の開通によって、高速交通ネットワークの整備がひとつの区切りを迎えた。今後は東九州圏域が一体となって、その価値を国内外にいかんなく発信できるよう、この機会を逃すことなく積極的に取り組んでいく。

大分市長　佐藤　樹一郎 氏

広域防災体制の確立にも寄与

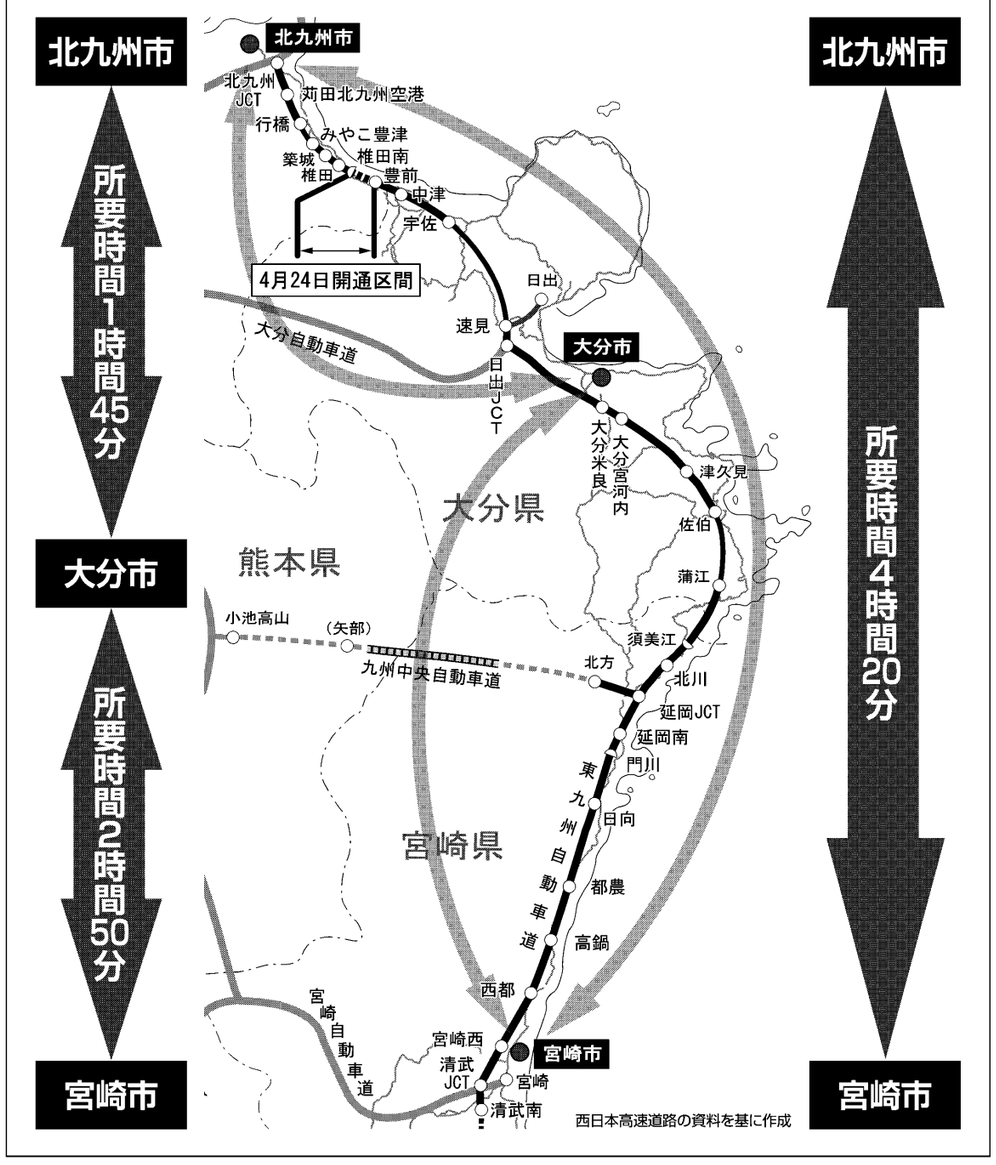
大分市においては15年度末、東九州自動車道（大分―宮崎）が開通したことに加え、新JR大分駅ビル「JRおおいたシティ」のオープンやJR各社など官民連携した観光キャンペーン「おんせん県おおいたデスティネーションキャンペーン」を開催した。

さらにはアートフェスティバル「おおいたトイレンナーレ2015」をはじめとする独自の事業展開により、県内外から多くの方々が本市を訪れ、にぎわいと活気であふれた1年だった。

市内では宮崎県をはじめ県外ナンバーの車を多く見かけるようになり、開通効果を強く実感している。

こうした中、北九州市まで東九州道が開通したことにより、すでに供用されている九州縦貫自動車道および九州横断自動車道などと一体となった循環型高速交通ネットワークを形成。東九州地域はもとより九州全体の産業、経済、観光の発展、さらには広域的な防災体制の確立などに大きく寄与するものと期待している。

これを契機として本市としても、食や史跡などの観光資源の発信や中心市街地におけるさまざまなイベントの開催などを積極的に展開していく。まちの魅力を高めるとともに、これを企業誘致などによる雇用の創出へとつなげることで、本市のさらなる発展を実現していきたい。



このたび熊本・大分両県を震源とする地震により
被害を受けられました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

おいしさ創る蒸気の力で世界に羽ばたく！ スーパーオーブン

調理方法の革命
スーパーオーブン（過熱蒸気調理装置）の特徴

業務用食品調理装置及び食品研究開発装置（解凍、焼成、脱油・熱殺菌）

■高温で殺菌でき酸化されにくいため、保存性が良い。
■短時間で調理するため、栄養分の残留が多い。
■調理環境が非常に良い。
■装置の清掃が短時間で良い。
■安全性が高い。

●美しい食材を提供
均一な調理製品を大量に製造可能。

●多目的な用途
温度設定、時間設定が自由に設定できる。操作もシンプルで簡単操作、少量多品種の製造が可能。

●安全で衛生的
熱源が蒸気であるため、火災の心配がまったくなく安全です。

●メリットは経済性
開放型ガス焼成器と比較するとランニングコストは約2分の1以下。

異なる加熱処理によるキャベツ中の成分変化表（表1）

加熱方法	総ビタミンC（mg/100g）	ミネラル（%）	クロロフィル（ppm）	水分（%）	光沢
生キャベツ	224	0.6	10	93	−
ボイル	109	0.4	12	94	良好
炒め	175	0.7	8	91	褐変
過熱蒸気加熱	260	0.9	13	87	良好

提供：デリカート株式会社

高い栄養残存率が魅力

「食品機械で世界に羽ばたく」と意気込むのは清本鐵工（宮崎県延岡市、0982・24・1111）の清本英男社長。食の安全安心に対する消費者の高い関心を受けて開発する食品機械は、今後成長する事業の柱と位置づける。同社は1937年に創業。以来、高い技術開発力で化学プラント装置や食品機械、船用鋳鋼部品、水処理施設の設計製造を手がけてきた。中でも食品機械で注目なのは過熱蒸気調理装置「スーパーオーブン」。スーパーオーブンの魅力などについて聞いた。

清本鐵工本社にあるスーパーオーブンのテスト・ラボには毎日のように食品関連業者が訪れる。サンプルを持ち込んでは焼き加減などを試験している。

開発したのは95年。高温水蒸気を熱源に、食材を高速調理する過熱蒸気技術を採用した。発売以来、顧客ニーズに応じてラインアップを充実。全長約15㍍、1時間当たり約2・5㌧の最大調理能力を持つ大型装置もそろえる人気商品だ。

食材の焼成、解凍、蒸す、煮る、炊く、揚げるなどの調理はもちろんのこと。焼成は低酸素状況下で、120―370度Cの過熱蒸気を利用して短時間に殺菌調理できる。

このため「食材の酸化を防ぎ、ガスや遠赤外線調理などに比べて栄養分の残存率が高い」（清本邦夫専務執行役員）。（表1）

焦げ目調節でうま味を封じ込めると、「エビの焼き色は鮮やか、中までしっとりとジューシーに焼き上げる」（同）と胸を張る。

少量多品種製造に対応し、ランニングコストは開放型ガス焼成器に比べて、約半分以下というのも魅力だ。省エネ性を重視した装置開発も進めている。

スーパーオーブンのほかには真空フライヤー、キャンディー製造機も人気だ。型に鋳込むデポジット方式のキャンディー製造機は国内トップシェア。韓国、中国の大手製菓メーカーにも輸出する。

海外では高品質、高付加価値の日本製品への期待は高い。そのため食品の品質に厳しい日本市場で磨いた技術によって、今後は旺盛な海外需要に応えていく考えだ。PR

〔キヨモトの産業機器〕
■食品機械　■鋼構造物製作　■木質バイオマス利活用プラント
■一般産業機械　■火力、原子力発電用機器　■汚水処理プラント

キヨモト 清本鐵工株式会社
本社・延岡工場／〒889-0595宮崎県延岡市土々呂町6-1633　TEL（0982）24-1111　FAX（0982）24-1145
http://www.kiyomoto.co.jp　東京・関東・富士・大阪・倉敷・佐賀・大分・長崎・日向・都城